

Der Hafen

(港)

横浜日独協会設立1年

「個人会員数が100名を突破」

昨年10月設立以来、会員数は個人が103名、法人は5社(団体)に達しました。会員皆様のご努力のお陰です。設立記念式典・演奏会や月例会の企画・実施・広報にお骨折り頂いた役員・会員のご努力の賜であり、ドイツ大使はじめ大使館の方々、横浜市長および国際政策室の皆様のご支援に負うところも大きいと思います。

日独交流150周年の輝かしい年に生まれた横浜日独協会は、横浜市の発展と軌を一にして活動の分野を内外に広げ、皆様と共に発展して参ります。どうぞ楽しいクリスマスと実り多い2012年をお元気でお迎え下さい。

(会員数は12月4日現在です。この1年の主な活動は次頁をご覧ください)

新たに4理事就任

神永晋氏、山岸隆氏、南雲淑子氏並びに成川哲夫氏の4名が協会活動の拡大と強化のため理事に就任いたしました。

2011年度全国日独協会連合会 横浜で開催

10月21日(金)みなとみらいの「ナビオス横浜」で開催されました。本年度は当初奈良での開催が予定されていましたが、東日本大震災発生の影響で時期と場所が変更となり開催されたものです。

当時は林横浜市長の歓迎のご挨拶を頂き、早瀬会長が地元の日独協会として挨拶されました。横浜日独協会からは会長の他、能登、大久保、南雲、佐藤の理事会員が出席すると共に、会場での準備、受付等を手伝いました。

ドイツ大使館よりは、来賓としてクラウスオット・シュミット文化部長が会議にはベルリン独日協会クルト・ゲルガー会長、独日青少年協会のゲザ・ノイエルトさんが参加され活発な議論が交わされました。

主な議案:

- 新規加盟協会 いわき日独協会 沖縄ドイツ協会
退会協会 青森日独親善友の会
加盟総数は 60協会となりました
- 連合会副会長増員
仙台日独協会大和田会長
- 連合会へ寄せられた、国内の約3百万円並びにドイツからの5万ユーロ義援金は理事会での方針を了承、釜石市の教育委員会へ送られることになりました
- 来年の総会の開催は4月後半に東京で開催予定
その他、各地の日独協会から事業や現状の報告があり、終了後は懇親会がひらかれました。

横浜日独協会会報

発行 2011.12.1 (第6号)

事務局: 〒223-0058 横浜市港北区新吉田東2-2-1-913

能登 崇 方

Tel & Fax 045-633-8717

e-Mail tak_noto@yahoo.co.jp

会報編集責任者 大久保 明

e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

オー、タンネンバオム！ (1)

会長 早瀬 勇

クリスマスが近づくとドイツでは“清しこの夜”と並んで“モミの木”(オー、タンネンバオム)がよく歌われる。“モミの木よ、おまえはなんと忠実なのだ！雪が降る冬でも葉の緑色は変わらない。・・・”という歌詞で、常緑樹モミの木をドイツ人の忠誠心に重ねた力強い歌だ。

ドイツ人にとって領土の南西部を覆うシュヴァルツヴァルト(黒い森)は命の森だ。森を黒く見せているのは主に常緑樹モミの木(Tannenbaum)だが、この命の森が酸性雨などで褐色に染まった時は、戦後の「経済の奇跡」に浮かれていたドイツ国民が騒然となった。環境保護に対する危機意識が全国に広がり、環境保護団体が「緑の党」を結成し国会に代表を送った。排気ガス規制など環境問題への取り組みが促進され、ゴミの分別が厳しさを増し、商店の包装紙は激減して自前の布袋を繰り返し使うようになった。命の森の木々を枯らしたのは国内の排気ガスだけではない。1979年には酸性雨の越境移動に関し「長距離越境大気汚染条約(ワイン条約)」が結ばれ、酸性雨の原因物質を削減するために脱硫・脱硝技術(設備)を排出源に導入することが近隣諸国と取り決められた。

ドイツ民族の森に対する愛情というか執着は半端ではなく、「命の森」を守る意気込みは凄い。1965年ごろ留学先の大学食堂(メンザ)で、ある日緑色の制服に身を固めた凜々しい学生の一団が中央の大テーブル陣取った。隣の友人が、彼らは大学入学資格(アビトゥア)の上位合格者だけが入れる森林学部の学生で、命の森を守る国家エリートだと教えてくれた。(今では環境学が加わり「森林学・森林環境学部」となっている。)彼らは森林の保護・管理を通じて自然環境を守るばかりではなく、木材の安定的な生産・輸出という重要産業を支えている。

ドイツの森林を散策すると、日本との大きな違いがわかる。まず作業道(森林内路線)。これが整備されていないと効率的な仕事が出来ない。その路線密度(m/ha)は日本の17mに対しドイツでは118mと7倍だ。地形の違いから集約化の障害もあるが、森林面積でドイツの倍以上ある日本が、木材の生産量はドイツの約35%、輸出量は40分の1だ。

荒れた森を放置すれば水は汚れ、洪水被害も助長される。ドイツの様な国民的危機感が日本にはなぜないのでしょうか。

(次号に続く)

横浜日独協会のこの1年間の歩み

2010年10月16日設立総会

オクトーバーフェストで賑わう都筑区にある東京横浜
獨逸学園でのシュタンツェル駐日ドイツ大使はじめ、
各地の日独協会の役員、さらにドイツからの出席者を
迎えて設立総会を開催。当日は日独交流150周年記念
の日本でにおける行事の開会式典も行われ林横浜市長も、
ピーパードイツ外務大臣も来賓でご出席され、
横浜日独協会の設立に花を添えて下さいました。



日独交流150周年記念開会式典

12月10日 忘年会を兼ねての懇親会を開催

2011年2月19日 例会「ベルリンの壁崩壊前後」
織田正雄顧問を講師に迎えて、DVDを使用しての講演会

3月13日 例会「ドイツ人と日本人、似ているところ
と違うところ」講師川口マーン恵美氏

4月14日 独日協会一行来訪。 横浜開港記念館にて
林文子横浜市長の歓迎を受け、そのご横浜、鎌倉を
同行案内、懇親会を湘南日独協会と共に

5月21日 日独共同写真展「歴史と未来を紡いで」後援
(会場:日本新聞博物館、7月31日迄)

6月11日 定時総会と例会を開催

例会「震災復興に向けての日独共同プロジェクト」講師は理事のハンス・ユーデック氏で「ドコデモエヨ
カ」カーシェアリングのプロジェクトの推進

7月2日 「横浜日独協会設立記念音楽会」をフェリス
ホールにて開催。 シュタンツェル大使ご夫妻はじめ
多くの来賓を迎えて満席になる盛会



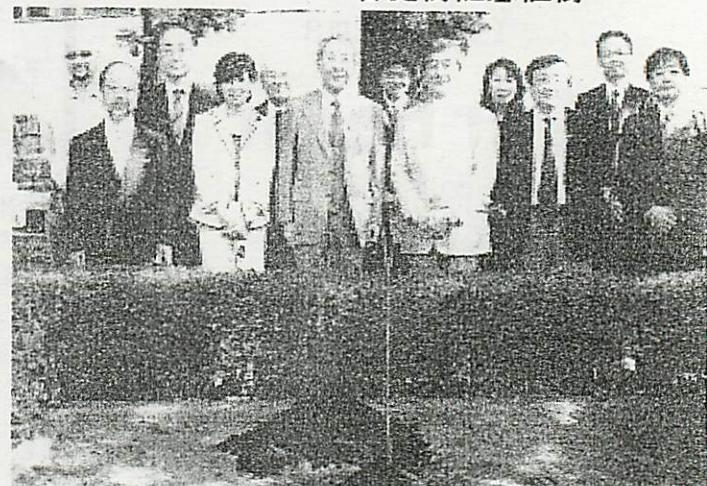
音楽会での大使はじめ来賓の皆様と会長

9月22日 例会「ブレーメン市のロイドパーサージュとの友好20周年」講師はモトスミ・ブレーメン通商店街振興組合伊藤理事長並びに山田前理事長

10月30日 例会「サッカー観戦と講話」横浜FC対
ファジアーノ岡山を観戦、その後横浜FCの会長で日本人最初のブンデスリーガーである奥寺康彦氏の講話と懇親会

日独交流150周年記念

菩提樹記念植樹



菩提樹と向かって中央右学長並びに左会長と出席者

日独交流150周年記念にドイツから送られて来ました菩提樹の植樹式が11月2日神奈川大学白楽キャンパスで行われました。大学からは中島三千男学長、池上和夫副学長はじめ多くの皆様が出席され、横浜日独協会からは早瀬会長他が出席しました。更に神奈川大学出身の山口ゆう子都筑区選出神奈川県議員も参加され、終了後は学長主催の昼食懇談会で大学と横浜日独協会の協力について意見交換を行いました。

神奈川大学へは菩提樹3本が贈られ、二本は他のキャンパスへ植樹されます。当日の準備その後のメンテナンス等神奈川大学の皆様に大変お世話になりました。

横浜日独協会とフランクフルト独日協会 との連携について

先般より当協会は、横浜市とフランクフルト市とのパートナー協力協定締結を踏まえて、フランクフルト独日協会との連携を進めるべく先方とコンタクトを取って来ましたが、この度12月3日、成川理事がフランクフルトで先方のゲンプト会長、クノープラウホ理事と会い、具体的な今後の進め方について話し合いを行いました。まず今回の連携協定締結について、フランクフルト独日協会サイドに異存はなく、喜んで協力し、両協会間の友好関係を深めて行くことが確認されました。その際、連携協定そのものについては包括協定の形(ドラフトは先方が準備)として、具体的な連携の内容については各々両協会の窓口の理事(先方:クノープラウホ理事、当方:成川理事)間で話し合いを行うことも確認されました。フランクフルト独日協会サイドは、来年4月中旬に開かれる次回総会で、この連携協定の承認を行いたいとの意向であり、それまでに両理事間で提携内容を具体化することになります。

(成川)

11月13日 例会「大震災から8ヶ月」一の関の児童養護施設「藤の園」セリーナ園長の講話

12月4日 例会と忘年会(予定)

「明治より現在へのウインクレル商会の道のり」社長で当協会理事のロベルト・ゼーリヒ氏の講演

10月例会

「サッカー観戦と講話」

理事 戸田 龍介



懇親会での奥寺氏（向かって右）と戸田氏（同左）

横浜日独協会 (JDGY) の10月例会は、日本人最初のブンデスリーガプレーヤーにして、現横浜FC会長の奥寺康彦氏の講話を頂いた。さらに、横浜FCとファジアーノ岡山の試合観戦後（試合は残念ながら0対1で惜敗）、奥寺氏を囲んだ懇親会が行われた。

講話では、奥寺氏がブンデスリーガに飛び込むことになった経緯や、プレーヤーおよび生活人として感じたドイツにおける苦労話をお話し頂いた後、JDGY会員からの質問にも丁寧に答えて頂いた。ブンデスリーガでの優勝を決めるゴールの話等、興味深い話題は多数あったが、私個人が最も印象深かったのは、奥寺氏のドイツへの移籍話であった。奥寺氏によると、自身のドイツ移籍は、移籍先のドイツチームの監督や周囲からの強い勧めによるもので、本人は当初乗り気ではなかったし、移籍については迷いに迷ったということであった。最終的に奥寺氏に移籍を決断させたのは、昨今しばしば耳にする「未知なるものへのチャレンジ」というより、移籍を勧めてくれる多くの人の「縁」であったという。

奥寺氏が「縁」を大切にされる方だということは、横浜FCの試合後のお忙しい中、チームスポンサーでもない我々JDGYの懇親会にまで足を運んでくださったことによってより強く実感した。上記の写真は、懇親会歓談時に無理をお願いしてツーショットで納まって頂いたものである。

懇親会挨拶において、JDGYの早瀬会長がいみじくも述べたように、奥寺氏は今や「日独交流の象徴」たる人物といって過言ではない。そのような方の貴重なお話しを聞き、さらに杯を酌み交わす機会に恵まれたのも、我々個々のJDGY会員が有する「ドイツとの縁」がとり結んでくれたものなのであろう。我々JDGYは、横浜とドイツとの様々な縁をとり結ぶお手伝いをしていくと考えているが、さらにその「ドイツとの縁」が「良い縁」となるよう努力もしなければならないことを強く感じるのであった。翻って、J2の中で苦しい戦いが続く横浜FC、そしてまだ強固とは言えない基盤に立つJDGY、横浜に拠点を置く両団体が邂逅し得たのも、まさに「ドイツとの良縁」の賜物なのであろう。

最後に一言（いや二言か）。頑張れ、横浜FC！ そして、頑張ろう、横浜日独協会 (JDGY) !!!

11月例会

「児童養護施設一藤の園」

園長シスター・セリーナの講演

理事 成川 哲夫

11月の例会では、岩手県一関市の児童養護施設「一関藤の園」の二代目園長でドイツ人のシスター・セリーナに「大震災から8か月—「藤の園」の児童達は今どうしているのでしょうか」と題して、お話を伺いました。

「一関藤の園」に対しては、今年の7月2日に横浜のフェリス女学院で行われた横浜日独協会設立記念演奏会で義援金を募り寄付させて戴いたことがご縁で、今回お話を伺うことになったものです。

成川哲夫氏

この養護施設は昭和36年にドイツに本部を置くフランシスコ修道会により設立され、37年より岩手県知事の認可を得た社会福祉法人として、親の死亡や病気、離婚や虐待等によって家庭を失う等の様々な不幸な事情からここに入園している子供達約60人の養育支援にあたっています。



シスター・セリーナ

同じ第2次世界大戦の敗戦国であるドイツからの支援で、すでに昭和36年に日本の岩手県に養護施設が造られたことは大変な驚きでした。ドイツ自身戦後東西に分割され、自らに敗戦からの再建が重くのし掛かっていた時に、海外へこうした支援の手を差し伸べ、ドイツ人のシスターが派遣されて来たという事実を我々日本人は重く受け止めるべきだと思います。



講演会場

翻って、既に豊かな国になった日本が、経済面のみならず、こうした社会福祉面での国際貢献にどのように取り組んで行けるのか、そうした意識を持った人材をどう育てて行けるのか、日本として支援のためのどういった枠組みが可能なのかに思いを致す必要があるように思いました。3月11日の大震災が起きた時、施設の建物は壁に亀裂が入り道路側に4-7cm傾き、園内通路の陥没による水道管破裂等大きな被害を受けましたが、幸い子供達や職員の方々は全員無事だったそうです。しかしながら、震災直後はこうした施設への行政側の配慮がなく、食料なども避難所には配給されても、こうした施設には配給されなかつたそうで、備蓄の食料や水が途切れた後は自分達で調達を行い、少しずつ食料が配給されるまで耐え忍んだそうです。（次頁に続く）

(前頁よりの続き)

1 1月の例会「シシター・セリーナの講演会) より

行政側の配慮不足と、今後の災害に向けての緊急時対応の整備と再検討が必要だと思いました。一方で国内外からの支援のアクションは早く、震災直後から励ましのメッセージが続々と届けられ、ドイツから4月には義援金、5月には千羽鶴も届けられたそうです。この間、食料不足や精神的なイライラによって大きなストレスがあった子供達も、「壁に貼られたこうしたメッセージの一枚も破ることはなかったことを誇りに思う。」と言われていたことが印象的でした。シスターは、不便な生活は継続しているものの、本部からの支援もあり、完成には1年を要する建替え計画がようやく固まり、12月には仮設施設に引っ越しされるということで少しホッとされていましたが、日本サイドの更なる支援の必要性を強調されておられました。横浜ワールドポーターズの会議室で行われた例会には、会員の皆さんのご関心のあるテーマだったこともあり、会議室定員を超える28名のご参加を得ました。協会としても限定的かもしれません、今後とも何らかのサポートを継続して行くことができればと考えております。(丁)

「会員情報」

フェリス女学院大学のインターンシップ

JDGY の法人会員であるフェリス女学院大学は1966年よりインターンシップ制度を導入し、毎年春休み（2月—3月）と夏休み（8月—9月）シーズンに海外には10名程度・国内企業には20—40名程度の学生を派遣しております。期間は国内が2週間（70時間）・海外が4週間（140時間）を限度としております。

同学ではインターンシップを教育の機会ととらえており日当は支給不要ですし、海外渡航費用も宿泊費用も全て学生の自己負担としております。

JDGY の法人会員や個人会員の勤務先でインターンシップを受け入れてくれる所を是非紹介して欲しいとの要請がありましたので宜しくご検討下さい。

受け入れ可能の企業があればJDGY事務局にお知らせ頂ければ、フェリス女学院大学の担当部署より直接企業のご担当の方にコンタクトさせて戴きます。(黒崎)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 編集後記 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

○横浜日独協会が設立1年とになりました。会員数100名を越える全国的にも大きな日独協会となりました。日独友好150周年記念の年にも当たり、駐日ドイツ大使、横浜市長はじめ多くの方々の支援の賜物と感謝しています。会報Der Hafenも皆様のお陰で第6号をお届けできる事を大変嬉しく思います。会員の山口利由子さん小菅象一郎さんから編集のご協力の申し出があり紙面の刷新も考えております。

○今月号の会長コラム「オー、タンネンバオム！」の表題に「オッ！」と感じられた方もおられたかもしれません。「タンネンバウム」と覚えていた方も多いのではないでしょうか、12月2日のNHKラジオドイツ語講座で、高名な小塩節先生がBaumはbaumでなくbaumと発音するように注意しておりました。“baum・クーヘン”に惑わされないようにとの事でした。

○Flohe Weihnacht und ein glückliches neues Jahr!

2011年は東日本大震災、原発の問題も発生しました。2012年は日本ばかりではなく世界全体の節目の年となるでしょう。

新年の皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(大久保)

行事予定

①2012年1月例会

「ドイツソーセージの話、見学、試食会」
Sausage Factory (ソーセージ・ファクトリー)

泉区和泉町3698-1番地

電話 045-211-4112

ドイツの国際コンテストで高い評価を得ている、製造の過程を見学し、その後公会堂へ会場を移し社長よりソーセージへの取り組み等を伺います

なお、当日商品をお買い求め頂ける予定です

日時 1月21日(土) 14:00~

場所 相鉄線和泉中央駅改札集合

会費 1,000円

②2月例会

講演会「ドイツとEU」

講師 ゲルハルト・ヒルシャー氏 (元南ドイツ新聞特派員、元神奈川大学経営学部特命教授)

日時 2月18日(土) 14:00~

会場 横浜市芳野町市民プラザ会議室

電話 045-243-9261

地下鉄「吉野町」京急「南太田」駅より
徒歩3~4分

会費 1,000円

③3月例会

講演会「ボッシュの企業理念」

ボッシュは創業125周年をまた日本進出100周年を迎えてます。

講師 田上雅弘氏 (ボッシュ株式会社横浜所長)

日時 3月24日(土)

会場 ボッシュ社内 (都筑区牛久保3-9-1)

会費 1,000円

④4月例会

「仮称ードイツ縁の横浜市内を歩く」

皆様からの情報、希望を募っています
事務局へお知らせ下さい

⑤5月例会

講演会「芥川龍之介の世界とドイツ」

講師 宮坂フェリス女学院大学学長

日時 5月19日(土) 15:00(未定)

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://jdgy.sub.jp/index.htm>